

令和3年度のまとめ

① 研修会の実施状況

回	期 日	会 場	研 修 内 容	参加人数
1	6・2	佐鳴台小	○研究テーマおよび事業計画の提案 ○講話 ・演題「よい評価とは」 ・講師 市教委指導主事 武田 伸江 氏	153人
2	8・5	引佐多目的 研修センター	○授業づくり研修 第3回研修会に向けたグループ協議 ○実践発表 ○講話 ・演題「道徳科の授業づくり」 ・講師 市教委指導主事 武田 伸江 氏	154人

② 研究部の研究内容

ア 本年度の研究目標

「自分らしさを大切にし、ともによりよく生きる子供を育む道徳教育
～ 考え、議論する 道徳科の授業 を核に ～」

このテーマは、「特別の教科 道徳」を道徳教育の要と位置づけ、全ての教育活動と関連づけながらよりよい生き方を学び、未来の自分の生き方につなげていく子供を育てることを意味している。小学校では「自己の生き方」、中学校では「人間としての生き方」を深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていくことを目指す。

道徳科の時間を通して道徳的価値について理解し、自分との関わりで道徳的価値を捉えることによって自己理解を深め、自分なりに道徳的価値に対する課題などを持てるようにしていきたい。そのために、自己の（人間としての）生き方についての考え方を深める道徳科の授業の工夫、道徳科の授業を要とし、全教育活動を通じて行う道徳教育の充実、道徳科の評価とその有効的な活用方法の工夫を研究の視点とし、研修を深めていく。こうした授業の具体を求め、実践を積み重ねることで、子供たちが自己を見つめ、自分らしさを大切にしながら、将来への夢や希望を持てるようになれば、目標に向かって自分の未来を切り開き、たくましく生きていく力を身に付けるものと思われる。

イ 研究内容

(ア) 第1回研修会

- 研究テーマに基づいた研究の視点について確認
- 指導主事の講話「よい評価とは」

道徳科の評価は、よい考えではなく、よく考えていること（自己との関わりで考えたか、多面的・多角的に考えたか）を評価する。また、受け止める子供たちがどう捉えるか、励みになるか、ねらいに向かってどう考えていたかを評価すること等が大切であると御指導いただいた。

(イ) 第2回研修会

○ 授業づくり研修

第3回研修会に向けた授業者の提案を基に、発問や手立て、授業の流れ等について参加者がアイデアを持ち寄り、小グループで話し合った。

○ 実践発表

有玉小

『主体的・対話的で深い学び』の実現

浜北北部中

「生徒の心に寄り添い、はたらきかける道德」

○ 指導主事の講話「道德科の授業づくり」

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、ねらいと

する道德的価値について、自己との関わりで多面的・多角的に考えさせる学習にすることが大切である。そして、そのためには、自分自身の経験を想起しながら考えられる手立てを工夫することや話し合いの内容を可視化し、違う立場の考えについての発言を促したり、そう考える理由を聞いたりすることが必要であると教えていただいた。



講話をする武田指導主事

(ウ) 第3回研修会

研修会を開催することはできなかつたため、実践予定の4校で実践を行い、指導案と実践報告を全校に配布した。

1ブロック 城北小	小5年 教材名「銀のしよく台」 授業者 城北小教諭
2ブロック 芳川小	小1年 教材名「ダメ！」 授業者 芳川小教諭
3ブロック 上阿多古小	小5、6年 教材名「銀のしよく台」 授業者 上阿多古小教諭
4ブロック 雄踏中	中2年 教材名「『桃太郎』の鬼退治」 授業者 雄踏中教諭

実践した学校では、「事前アンケートの結果を基に学習を進めたり、自分の体験を想起させたりした」「心のメーターを用いて自分の考えを出させ、そう考える理由を聞いた」「多面的・多角的に考えられるよう、Xチャートを使い類型化しながら板書した」「アンケートや話し合いでムーブノートを活用し、全体で意見を共有した」等、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、手立てを工夫して実践を行うことができた。

③ 研究の成果と課題

今年度は、評価と授業づくりを中心に研修を進め、全3回の研修会につながりをもたせることができた。第3回研修会は、会を開催することはできなかつたが、第2回研修会で武田指導主事に御指導いただいた手立ての具体を生かし、各授業校で授業づくりを進めることができた。今後は、ICTを活用した授業実践に向けても研修を進め、明確な意図をもって活用していきたい。